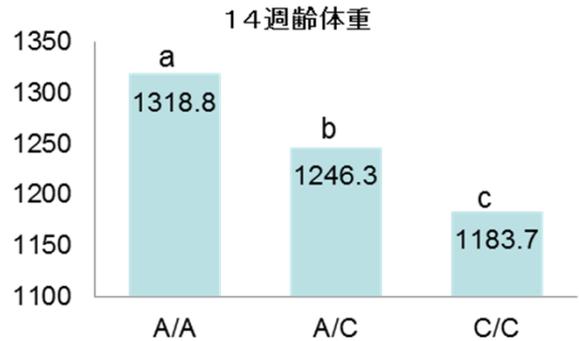


課題名: コレシストキニンA受容体遺伝子を指標とした
効率的な地鶏生産に関する研究
実施期間 H25 外部資金: 財団法人 伊藤記念財団

比内地鶏の成長形質とコレシストキニンA受容体遺伝子(CCKAR)の一塩基多型(SNP)(C > A)との関連性が明らかとなり、A/A型は他の遺伝子型より発育や飼料要求率が優れていることがわかった。



CCKAR遺伝子のSNP型と体重の関係

CCKARを指標とした効率的な比内地鶏生産の可能性

しかし、CCKARの特定の遺伝子型が、なぜ、成長の良い結果を示すのか、その分子機構は不明である。



そこで

CCKAR情報を用いた効率的な比内地鶏生産の実用化を目指すために

異なるSNP型(A/A、A/C、C/C)を持つ「比内地鶏」を作出し、SNPが体重、飼料摂取量、飼料要求率、飼育費用に及ぼす影響を明らかにする。
SNP型ごとにコレシストキニンA受容体の主要発現部位におけるCCKARのmRNA発現量を比較する。

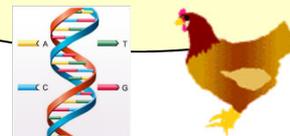
細目課題

- ①コレシストキニンA受容体遺伝子のSNP型が経済形質に及ぼす影響の解明
- ②コレシストキニンA受容体遺伝子のSNP型が生体での遺伝子発現に及ぼす影響の解明
- ③生産現場におけるコレシストキニンA受容体遺伝子のSNP型と比内地鶏の発育形質との関連性調査

最終到達目標

CCKARと比内地鶏の経済形質との関連性の解明

CCKARを指標とした効率的な比内地鶏生産



研究機関 秋田県畜産試験場
茨城大学